

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「読んで、かんじたことをつたえ合おう」 教材名「スーホの白い馬」

2 単元の目標

場面の様子や人物の行動を表す語句に注意して音読できる。スーホと白い馬の行動から感じたことを、選んだ場面を示しながら友達と共有できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①場面の様子や人物の行動を表す語句に注意して音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、スーホと白い馬の行動から感じたことを、選んだ場面を示しながら友達と共有している。（C(1)力）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

スーホと白い馬の関係を行動から確かめ、印象に残った場面とその理由を伝え合う。あらすじを長く説明するだけにせず、自分が選んだ場面のどの行動から何を感じたかを示す。学習指導要領のC(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)クを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

スーホと白い馬の行動を別の欄に書き、どの場面かを確かめる。読みに時間がかかる児童には選んだ場面を教師と音読する。自分の経験や喪失体験を話すことは求めない。おおむね満足できる状況は、スーホと白い馬の行動から感じたことを、選んだ場面を示しながら友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全14時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、登場人物と初めの感想を確かめる。知らない語句を場面に戻って確認する。	学習状況を見て支援する。
第2次	3～4	○出来事を順に並べ、スーホと白い馬の関係が分かる行動を探す。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○大きく出来事が動く場面を読み、それぞれの人物がしたことを確かめる。	学習状況を見て支援する。
	7～8	○白い馬に関わる後半の出来事を読み、前半の行動との関係を考える。	学習状況を見て支援する。
	9	○紹介したい場面を選び、どの行動から何を感じたかをメモする。	学習状況を見て支援する。
	10 （本時）	○選んだ場面と感じた理由を伝え合い、感じ方の違いを聞く。	思①（発言・学習記録）
	11～12	○交流を受けて場面を読み直し、自分の感想を紹介文にする。	学習状況を見て支援する。
第3次	13～14	○紹介文を交流し、全文を読む前後で変わった感じ方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (10/14)

(1) 本時の目標

スーホと白い馬の行動から感じたことを、選んだ場面を示しながら友達と共有できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「スーホと白い馬のどんな様子が印象に残りましたか。その場面を選んだ理由を、行動が書かれたところから話しましょう」 【めあて】スーホと白い馬の関係を行動から確かめ、印象に残った場面とその理由を伝え合う。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ場面を選んだ友達でも、気になった行動は違っていた。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「スーホと白い馬のどんな様子が印象に残りましたか。その場面を選んだ理由を、行動が書かれたところから話しましょう」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ場面を選んだ友達でも、気になった行動は違っていた。 ・前の場面を思い出すと、いっそう悲しく感じる。 ・最後まで読むと、初めに選んだ場面の感じ方が変わった。	スーホと白い馬の行動を別の欄に書き、どの場面かを確かめる。読みに時間がかかる児童には選んだ場面を教師と音読する。自分の経験や喪失体験を話すことは求めない。 想定する難しさ：悲しかったという感想だけになる。登場人物の行動を自分の願いに置き換える。友達の感想をそのまま写す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① スーホと白い馬の行動から感じたことを、選んだ場面を示しながら友達と共有している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・最後まで読むと、初めに選んだ場面の感じ方が変わった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「スーホと白い馬のどんな様子が印象に残りましたか。その場面を選んだ理由を、行動が書かれたところから話しましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

